

# 関東都市学会ニュース 2022年5月号

(2022-1号)

発行 関東都市学会

〒236-8502 神奈川県横浜市金沢区釜利谷南 3-22-1

関東学院大学社会学部小山弘美研究室内

Tel: 045-786-9369

<E-mail> info@kanto-toshigakkai.com

http://www.kanto-toshigakkai.com

「関東都市学会」郵便振替：00130-9-33044、三菱 UFJ 銀行麹町中央支店普通口座 0201604

2022年度の関東都市学会春季大会を、5月29日(日)にオンラインで開催いたします。会員の皆様にはふるってご参集いただきたくお願い申し上げます。5月21日(土)までに全学会員にむけてメールでオンライン参加に必要なIDとパスワードをお送りいたします。学会に登録されているメールが無効である場合はメールが届きません。メールが届かなかった場合(学会にメールアドレスを未登録の場合を含む)は、事務局(info@kanto-toshigakkai.com)まで、有効なメールアドレスをご連絡ください。参加方法の詳細は3ページをご覧ください。

また、2022年度総会も、春季大会と同日、シンポジウム後にオンラインにて実施します。春季大会に先立って各委員会・理事会も開催いたします。

## 関東都市学会 2022年度春季大会のご案内

**開催日時** : 2022年5月29日(日) 13:30-17:00

**開催方法** : ZOOMによるオンライン開催

※同一のURL・ID/PWを、シンポジウム、総会で使用します。

※シンポジウム開始10分前にミーティングを開場します。接続に不安がある方はシンポジウム開始前に接続状況をご確認ください。

**【シンポジウム】 13:30~17:00**

「新型コロナ禍と都市—現場からの提示を踏まえた再考」※詳細は2~3ページ

**【総会】 17:15~18:00**

議題：2021年度事業報告、2022年度活動計画、決算案、予算案

## 関東都市学会 理事会・各委員会のご案内

開催日時 2022年5月29日(日) 9:00~13:00 ZOOM ミーティング

**【編集委員会】** 9:00~10:00

**【研究活動委員会】** 10:00~11:00

**【理事会】** 11:00~13:00 議題：2022年度秋季大会について、他

《理事・委員の先生方へ》

理事会および各委員会で配布されたい資料は、事前にそれぞれのメーリングリストと事務局メールアドレスにお送りいただけますようお願いいたします。

【解題】 大会テーマ 新型コロナ禍と都市—現場からの提示を踏まえた再考

米本 清（研究活動委員長）

関東都市学会では、2021年度の秋季研究例会では「新型コロナウイルスと都市」を、また秋季大会では「ウィズコロナ／ポストコロナと都市」をテーマとして、新型コロナウイルスの蔓延が都市やその研究に及ぼす影響に関する検証を重ねてきた。本大会は、学会内外の方々にパネリストとしてご参加いただきさらに議論を深め、一連の取り組みの暫定的な締め括りとしようとするものである。

昨年の秋季研究例会では初めて新型コロナウイルスをメインテーマとし、話題提供者の浅野先生から市民生活への影響やそれによって顕在化してきた都市社会システムの潜在的な問題に関するご提示をいただき、出席者の中で各自の研究・教育生活への影響なども踏まえつつ今後の展望も含めた議論がなされた。また秋季大会では会長からのご挨拶（災害分野への言及を含む）および米本による解題（経済学分野）に続き、NPO・ボランティア／災害、社会学、地理学の各分野から話題提供がなされ、グループに分かれたワークショップも開催された。なお、秋季研究例会が開催された2021年9月25日は五輪前後にわが国で猛威を振るった第5波がまだ落ち着いていない状況であったが、秋季大会が開催された12月5日は新規感染者数が全国で100名／日前後にまで下がり、ポストコロナの息吹が感じられていた時期であった。また、この解題を執筆中の2022年2月には再び第6波が拡大中であるが、こうした度重なる大きな変動の中で議論や検証を進めなければならないこと自体、新型コロナ禍に特有の困難を示している。

これまでの議論では、従来都市の重要な成立要件とされてきた高い人口密度自体が新型コロナウイルスの蔓延を促進しがちであることから、ウィズコロナ／ポストコロナ下における都市のあり方に関して、以前から潜在的であった動向が表出したものも含め、様々な方向性が提示された。また新型コロナ禍によりはからずも都市社会システムの諸問題が浮き彫りにされたことなどから、都市学の研究者がこれまで行ってきた研究・教育がさらに深められ、それぞれ別の角度から光が当たっていることが確かめられた。

ただこうした中で、各研究者の努力だけでは新型コロナ禍やその対応に関する都市社会全体における実際的・実践的な状況把握が追い付かない部分があることは、多くの方々が感じられている通りである。新型コロナウイルスの感染状況や変異株ごとのリスク、ワクチンの効果、そして都市において人々や自治体、各団体などが実際にはどのように新型コロナ禍に対応しているか、といった現状把握なしには、今回の諸議論は地に足のつかない、新型コロナ禍やその影響を過大または過小評価しながら持論を展開するものとなってしまいがちである。また、現場に近い方々のお話からは、われわれのスタンスを大きく変えてくれるような、予想外のヒントが得られる場合もままある。

このたびの春季大会においてはこうしたコロナ禍のリアリティに関わるさらなる論点のご提供を中心として学会内外の研究者の方々にご登壇いただき、現状をより正確に把握しながら議論を深めることを趣旨としたい。とくに、行政における政策的・実践的な新型コロナウイルス対応やワクチン接種の現状、人々の行動（人流）とその抑制、まちづくりの現場における新型コロナ禍の影響などを中心にパネリストの方々からお話を伺った上で、単にここ2年間の直接的な動向を整理するだけではなく、新型コロナ禍が都市に対して本質的に何を提示しているか、これに応じて変わるべきもの、変わるべきでないものは何かといった、ポストコロナにおける都市社会に向け提示されている応用的な側面まで参加者自身で見極めていくことができればと考える。

**【シンポジウムプログラム】 13:30～17:00** 司会・進行：米本 清（関東都市学会研究活動委員長）

開会挨拶：大矢根淳（関東都市学会会長・専修大学）

解題：米本 清（関東都市学会研究活動委員長・高崎経済大学）

報告1：「コロナ禍における人流分析」（仮）

藤原直哉（東北大学）

報告2：「パンデミックからの復興とは？—「自粛できない」街・上野からの報告」（仮）

五十嵐泰正（筑波大学）

報告3：「地方自治体における新型コロナウイルスへの対応について—ワクチン接種への取組を中心に」（仮）

後藤好邦（山形市役所）

コメンテーター：平井太郎（弘前大学）

《その後、質疑応答および討論》

**春季大会シンポジウムおよび総会への参加方法**

**★ZOOM への接続方法★**

- ① 事務局から送信されたメールに記載されている URL をクリックしてください。そうすると、PC の場合にはアプリがダウンロードされます。ダウンロードしたアプリ（左下に表示される）をクリックすると、インストールが開始されます。インストールが完了すると、ZOOM が開始され「ZOOM を開きますか？」という画面が出るので、「ZOOM を開く」をクリックしてください。
- ② 初めて ZOOM 使う場合は、名前を入れてください。このとき、ニックネームなどではなく、実名を入れてください。ZOOM 経験者の方も必ず実名を表記してください。そちらの名前で学会員であることを確認し、ホスト（管理者）から参加許可を出します。
- ③ 「ミーティングに参加」をクリックしてください。
- ④ ID とパスワードが求められる場合がありますので、事務局から送信されたメールに記載されている ID とパスワードを入力してください。
- ⑤ 「コンピューターでオーディオに参加」をクリックしてください。
- ⑥ ミーティングに参加する際に一度「待機室」でお待ちいただきます。上記のとおりミーティングに参加していただきますと、画面に「ホストの許可をお待ちください」と表示されますので、許可されるまでそのままお待ちください。
- ⑦ ホストが許可したあと、ミーティングへの参加が開始されます。

**★参加時の注意点★**

- ① マイクは基本的にミュートにして参加してください。
- ② ミーティング中に発言したい場合は、ミュートを解除して発言してください。「挙手ボタン」やチャット機能での発言は全体ミーティングに反映されません。

**★事前の接続テストについて★**

当日のミーティングは例会開始 10 分前に開場しますので、接続に不安がある方はこの 10 分の間に接続状況をご確認ください。または、ZOOM のテストミーティング (<https://zoom.us/test>) にアクセスして事前の接続テストを行うことができます。

## お知らせ・募集

### 【2022 年度会費納入のお願い】

2022 年度の関東都市学会年会費の納入をお願いいたします。これまでの会費納入状況と振込用紙を同封いたしましたので、お確かめ下さい。2021 年度以前の年会費をまだ納めておられない方は、さかのぼって会費をお納めいただくようお願いいたします。なお、2 年度以上にわたって会費を滞納された方は、関東都市学会から日本都市学会本部に向けて提出する年度ごとの会員名簿から自動的に削除され、「日本都市学会年報」及び「日本都市学会ニュース」等が届かなくなるといった支障が生じますのでご注意ください。また 4 年度以上にわたって会費を滞納された方に対しては、原則として除籍の措置をとらせていただきます。会費支払と会員資格（関東都市学会及び日本都市学会）に関してのお問合せは、関東都市学会事務局まで文書あるいは e-mail でお願いいたします。

### 【『関東都市学会年報』第 23 号について】

前号のニューズレターにてお知らせしました通り、『関東都市学会年報』第 23 号は、2022 年 6 月中には会員各位のお手元にお届けできるよう作業を進めております。いましばらく、お待ち願います。

### 【『関東都市学会年報』第 24 号 自由投稿論文 募集のお知らせ】

『関東都市学会年報』第 24 号への自由投稿論文を募集いたします。原稿締切は 2022 年 6 月末です。自由投稿論文は、本学会の大会や研究例会、または日本都市学会の大会で行った口頭発表に基づく論文であることを原則とします。関東都市学会サイト <http://www.kanto-toshigakkai.com/> の「年報の投稿について」ページに掲載しました「投稿要項」・「執筆要項」をご確認のうえ、投稿してください。また、他地域都市学会の会員も所定の投稿料をお支払いいただければご投稿いただけます。

なお、直近に刊行される『関東都市学会年報』に「自由投稿論文」（査読付）を投稿する場合の、毎年のスケジュールの概要を、参考としてまとめます。ただし、変更が生じる可能性もありますので、詳しくは Web サイト・今後の「関東都市学会ニュース」等で、その都度ご確認ください。

	口頭発表の機会	年報に関するスケジュール
刊行前年度 9 月～10 月前半 10 月後半～11 月前半 3 月	関東都市学会研究例会 日本都市学会大会 関東都市学会研究例会	
刊行年度 5 月後半～6 月前半 6 月末日 3 月	関東都市学会春季大会	『関東都市学会年報』自由投稿論文 投稿締切 『関東都市学会年報』刊行予定

※口頭発表後の直近に刊行される『関東都市学会年報』ではなく、それ以降の年報にも投稿は可能です。

※関東都市学会の春季大会や研究例会で行った口頭発表に基づく論文は、『日本都市学会年報』にも投稿することができます。『日本都市学会年報』の「査読付き論文」の投稿締切は、日本都市学会大会が開催された月の翌月末で、前年度の日本都市学会大会終了日の翌日から、当該年度の投稿締切日の前日までに口頭発表した場合のみ、投稿することができます。『日本都市学会年報』の刊行は、例年では大会開催の翌年 5 月頃です。詳細は Web サイト等で各自ご確認ください。

## 【2022年度 第1回研究例会 報告者募集】

2022年9月10日（土）午後に関東学院大学金沢文庫キャンパスを会場として開催いたします、2022年度第1回研究例会の報告者を募集します。当日は対面とzoomによるオンラインのハイブリッド形式で開催しますが、報告者は対面にてご参加いただきます。ご希望の方は氏名、報告タイトル、内容の概要（300字前後）をe-mailで、関東都市学会事務局 info@kanto-toshigakkai.com までお寄せください。2022年7月20日（水）を〆切とします。申し込みが〆切を過ぎる場合には事務局までお問合せください。

## 【2022年度 今後の活動予定】

2022年9月10日（土）に関東都市学会2022年度第1回研究例会および理事会・委員会を開催いたします。また、2022年11月末から12月初旬に秋季大会の開催を予定しています。詳細は次号ニュースレターおよびホームページをご覧ください。2022年10月28日（金）～10月30日（日）に、日本都市学会第69回大会が開催されます。いずれもぜひご予定にお入れください。

## 【訃報】

本学会の会長を務められた石黒哲郎名誉会員が、2022年1月にご逝去されました。つつしんでご冥福をお祈り申し上げます。

## 【会員の異動】

（略）

## 関東都市学会 2021年度第4回理事会報告

2022年3月12日（土）に開催された2021年度第4回理事会の主な内容は次の通りです。

1. 本日の研究例会について
  - ・ 2名の会員が報告予定であることが報告された。
  - ・ 司会を西野淑美会員、印象記執筆依頼を米本清会員が担当することが報告された。
2. 日本都市学会賞推薦候補図書募集結果について
  - ・ 事務局長より応募者がなかったことが報告された。募集締切は4月末であり、引き続き理事からの推薦を待つことが確認された。
3. 日本学術振興会賞受賞候補者の募集結果について
  - ・ 事務局長より応募者がなかったことが報告された。
4. 2022年度春季大会について
  - ・ 事務局長から委員会・理事会を含む当日の全体スケジュール案が提示され、討議を経て当日のスケジュールを確定した。
  - ・ 研究活動委員長からおよび春季大会シンポジウムの企画について提案がなされ、2022年5月29日（日）にZoomを用いてオンラインで開催すること、大会テーマを新型コロナウイルス関連とすること、企画趣旨および登壇者案が承認された。
5. 今後の大会・研究例会について
  - (1) 2022年度第1回研究例会

- ・ 9月10日(土)に関東学院大学金沢文庫キャンパスにてハイブリッド形式で開催することが、討議を経て承認された。
  - ・ 討議においては、新型コロナウイルスの感染対策の観点から学外へ施設を貸し出すかどうかの方針が大学によって異なるため留意すること、会場における技術的な制約があるかどうかの確認が必要となることが確認された。そこで、関東学院大学は施設を学外へ貸し出し可能なこと、事前に会場の機材の動作確認を行い、当日の参加者に制約がある場合はそのことを伝えながら開催することを確認した。
  - ・ また、学会にて少しずつでも機材をそろえるなどして、ハイブリッド形式で学会活動を開催できるよう準備していくことがよいという意見も出された。
- (2) 2022年度秋季大会
- ・ 研究活動委員長より会員からの企画応募はなかったことが報告された。また、秋季大会の企画は理事会が中心に検討することを確認した上で、小田原をフィールドとすることや「変わりゆく生活スタイルと将来の都市(DX、関係人口、コロナ禍で進んだリモートや移住など)」といったテーマ案が研究活動委員会での協議において提示されたことが共有された。
  - ・ 討議の結果、2022年度春季大会時に行われる理事会にて企画提案できるよう、会長の声かけで河藤理事、平井理事、米本理事、小山理事で企画検討を行うことで委任および承認された。
- (3) 2022年度第2回研究例会
- ・ 事務局長より例年通り3月に開催することが提案され、承認された。
- (4) その他
- ・ 土居理事より、自由報告の申込が少なくなっていることから、報告を前提に投稿することになっている年報の投稿も次々号から少なくなるのではないかとの発言があった。大会や例会での自由報告を広く募集すると同時に、理事からも応募する見込みのある人に勧める必要があることが確認された。
6. 研究活動委員会から(米本研究活動委員長より)
- ・ 研究例会が成立するよう重ねて報告者の推薦の依頼がなされた。
7. 編集委員会から(野坂編集副委員長より)
- ・ 年報23号の編集状況が説明され5月に刊行予定であることが報告された。
  - ・ 2021年度秋季大会の逐語録について、新型コロナウイルスに関するテーマで速報性が重要なためホームページに掲載することが提案され、討議の結果、承認された。討議において、年報24号に先行して掲載されるため二重投稿にあたらないよう工夫していること(①PDFでの掲載ではなくホームページに特設ページを作ってHTML形式での掲載とする、②年報に掲載する際に年報の編集方針にしたがって修正される部分があり同じ原稿にはならない)が確認された。
  - ・ 年報24号に収録する2021年度春季大会の原稿執筆依頼を、担当者を決めて進めていくことが報告された。
  - ・ J-STAGEへの年報掲載については、引き続き進めていくことが報告された。
8. 日本都市学会から(熊田理事より)
- ・ 2023年の大会開催について検討の依頼があり、平井理事が議論に加わっていることが報告された。
9. 2023年度日本都市学会の大会運営について
- ・ 平井理事より小田原市での開催に向けた準備の状況として、日程、予算、シンポジウムにおける基調講演および現場視察の企画について市と交渉を進めていることが報告された。

- ・ 報告を受けての討議の結果、関東都市学会の理事会を母体にした実行委員会をつくり迅速に企画提案を承認するなど、平井理事が動きやすい学会の中での体制の位置づけを検討していくことが確認された。

#### 10. 事務局から（小山事務局長より）

- ・ 5ページで示した通り、会員の異動および訃報が報告された。また、2017年及び2018年からの会費未納者（対象者8名）に対し手続きを進めていくことが報告され、承認された。
- ・ 例年、3月理事会において決算の見通しおよび懇親会会費状況の事前報告がなされていたが、財政状況も安定していることから、事務負担軽減のため省略することが提案され、承認された。

#### 11. その他

- ・ 西野理事より、すでにJ-STAGEにアップされている年報15-18巻バックナンバーの処分を、前年度決定したように進めていくことが報告された。

## 関東都市学会 2021年度第2回研究例会（2022.3.12）の記録

### 関東都市学会研究例会 自由報告印象記

須藤 文彦（水戸市役所）

長引くコロナ禍により今回の例会もオンラインでの開催となったが、土日になかなか時間が取れずに総会や研究例会に足を運べなくなっていた私にとっては、大変ありがたい機会であり、多くの学びを得ることができた。まず、多忙な中で入念な準備をなさった皆様に感謝を申し上げたい。

さて私は、現実の都市行政に携わる実務家として本学会に参加させていただいている身である。したがって、研究例会や年報掲載の論文の見方は、学問の進展に貢献するかどうかよりも、「己の政策立案の思考の一助になるかどうか」という視点に偏りがちであるが、いずれの発表も示唆に富むものであり、我が都市のあり方を顧みる貴重な体験となった。

張修志会員による第1報告は、中国のハルビン市を舞台に、単位制から社区制への移行という社会構造の変容と、集合住宅管理の実態とを関連付け、類型化を試みた意欲的な発表であった。老朽団地を巡る課題は日本においても大きな問題であり、戦後の人口急増期に建設された団地群をどのように畳むかは、地域性や背景が多様であるために唯一の解決策など存在しない。

私は単位、社区、所有者委員会といった中国特有の組織の基礎知識が全くない中での拝聴だったが、発表後の質疑でも組織の定義を確認する発言が見受けられたので、日本の組織と比較したシンプルな対照表などが今後の論文に添えられると、一段上のレベルの議論が展開されるように感じた。また、他の質疑では、「共有において重要なのは、日常の清掃などよりも、建替えを意思決定できるかという点にある」という指摘があり、本報告内容のさらなる探究が期待される場所である。

第2報告は河藤佳彦会員によるもので、社会構造変革の新潮流を踏まえ、長野県上伊那郡辰野町を舞台に取り組みされた地域経済活性化策についての論説である。冒頭で整理された新潮流は、全国的に共通に認識すべき、政策的思考の一助となる内容である。それを各地で応用するには様々な方法があるはずだが、ここでは経済的価値よりも社会的価値を創造することに重きを置いた辰野町の企業の活動の意義がまず示され、同類型の都市にダイレクトに援用し得る事例が詳細に丁寧に紹介された。

質疑では、行政と民間のコーディネートの相違が問われ、行政のものは場の設定や側面的支援に強みがあることが説かれた。コーディネートの意義は、まちづくりの分野だけでなく、例えば芸術文化の分野でも盛

んに議論されており、多様な分野を含めた広義のまちづくりにおいて、知恵と連携を高めるコーディネート  
の重要性を改めて認識することができた。

さて、オンライン開催の有難みは冒頭に述べたとおりであるが、リアル開催における会員同士の交流は、  
学問や実務のレベルを高めるためにも、とても重要なものだと考えられる。コロナ禍が明けたら、双方のメ  
リットを活かしたハイブリッド開催というものも、期待したいところである。